

【 診療科:呼吸器外科 】
【 レジメン登録番号:ST-46 】

〈 CDDP+PEM+Pembrolizumab療法 〉

	投与量	投与経路	投与スケジュール(day)														
			1	2	3	4	5	6	7	8		15		21			
キイトルーダ	200mg/body	div	○														
ペメトレキセド	500mg/m ²	div	○														
シスプラチン	75mg/m ²	div	○														

【1コース期間: 21 日】 【総コース数:4コース】

【適応癌種: 非小細胞肺癌(非扁平上皮癌)】

【時期: 術前、術後、手術不能・進行・再発】

【休薬・減量に関する要件】

項目	基準	減量内容	休薬時の再開基準

<day1>		
Rp	薬剤名	投与経路(速度)
Rp.1	アブレヒタントカプセル 125mg	p.o.
Rp.2	キイトルーダ 200mg/body	div(30分で)
	生理食塩水 100mL ^{※1}	
Rp.3	生理食塩水 50mL	div(全開で)
Rp.4	デキサート 9.9mg	div(15分で)
	5-HT ₃ R Blocker 1A	
	生理食塩水 50mL	
Rp.5	ペメトレキセド 500mg/m ²	div(10分で)
	生理食塩水 100mL	
Rp.6	ソリタT4 500mL	div(60分で)
	アスパラギン酸K注キット 10mL	
	マグネゾール 10mL	
Rp.7	マンニトールS 300mL	div(30分で)
Rp.8	シスプラチン 75mg/m ²	div(60分で)
	生理食塩水 500mL ^{※2}	
Rp.9	ソリタT4 500mL	div(60分で)
	アスパラギン酸K注キット 10mL	
Rp.10	フィジオ140 500mL	div(40mL/hr)

<day2,3>		
Rp	薬剤名	投与経路
Rp.1	アブレヒタントカプセル 80mg	p.o.
Rp.2	デカドロン 8mg	p.o.

<day4>		
Rp	薬剤名	投与経路
Rp.1	デカドロン 8mg	p.o.

4コース終了後、手術不能・進行・再発癌の場合は下記の維持療法を行う

<day1>		
Rp	薬剤名	投与経路
Rp.1	キイトルーダ 200mg	div(30分で)
	生理食塩水 100mL ^{※1}	
Rp.2	生理食塩水 50mL	div(全開で)
Rp.3	デキサート 6.6mg	div(15分で)
	生理食塩水 50mL	
Rp.4	ペメトレキセド 500mg/m ²	div(10分で)
	生理食塩水 100mL	
Rp.5	生理食塩水 50mL	div(全開で)

【参考文献:N Engl J med 2023;389:491-503 】

【備考:※1:最終濃度が1~10mg/mLとなるように調製すること。インラインフィルターを用いて投与すること。

※2:生理食塩水の量はシスプラチンと合わせて500mLとなるようにする。

・輸液はShort Hydration法に準じている。必要時、輸液を追加する場合がある。

・重篤な副作用の発現を軽減するため、葉酸及びビタミンB12を投与すること。

・葉酸:本剤初回投与の7日以上前から葉酸として1日1回0.5mgを連日経口投与する。なお、本剤の投与を中止又は終了する場合には、本剤最終投与日から22日目まで可能な限り葉酸を投与する。

・ビタミンB12:本剤初回投与の少なくとも7日前に、ビタミンB12として1回1mgを筋肉内投与する。その後、本剤投与期間中及び投与中止後22日目まで9週毎(3コース毎)に1回投与する。】

【備考: 4コース終了後、手術不能・進行・再発癌の場合、ペメトレキセド+キイトルーダによる維持療法を行う。(最大35コース) 】

【備考: 4コース終了後、手術適応となった場合、術後はキイトルーダ単独の維持療法を行う。(ST-39を最大13コース) 】